

# 「わたし」も「あなた」もOK！

～そんな社会にするために人権の視点からボランティア活動を考えてみましょう！～



平成29年7月5日、九州北部地方を豪雨が襲いました。土砂災害や道路損壊も相次ぎ、土砂の流れ込みによって全壊・半壊した家屋も多く出ました。そのがれき・土砂を撤去するために、全国からたくさんのボランティアが集まりました。小郡市でも、すでにボランティアに行かれた方、またこれからボランティア活動しようと思われている方もいるのではないのでしょうか。お互いに「良かった！」と思えるようなボランティア活動のためには何が必要か、一緒に考えてみましょう。



この前の九州豪雨、大変だったけれど、各地からボランティアが駆けつけているよね。

朝倉市に住む私の妹も、土砂や流木が家の床下と庭に流れ込んで大変だったけど、被災2日後には、ボランティアの方が来て泥出しなどの作業を手伝ってくれたのよ。



被害のニュースを見て、早速駆けつけてくれたのね。

そうなの。私たちが応援に行った日は、10の方が作業を手伝ってくれたの。庭に流れ込んだ流木を運び出したり、庭の土砂をかき出したりしてくれたおかげで、家の周りは被災4日後には元の状態に戻ったのよ。



そのボランティアの方たちはどこから来たの？

福島県、熊本県西原村など日本各地からよ。「私たちも、災害にあって多くのボランティアの方に助けられました。その恩返しです」と話してくれたの。私たちは、感謝の気持ちと大きな勇気もらったわ。お礼を…と準備していたんだけど、何も受け取らずに「何か必要なときは、声をかけてください」と言葉を残して帰っていったの。



「ボランティア」って、作業をした人も、お世話になった人も温かいものでつながるのね。実はね、今度の日曜日に私もボランティアに行く予定なの。今の話で元気が出たわ！

このように、ボランティア活動は、相手の立場になって行動することで、お互いに「良かった！」と思えるような前向きな気持ちが芽生え、それが「わたし」も「あなた」もOK！と思える地域・社会づくりにつながっていくのではないのでしょうか？



●問合せ先 人権教育啓発センター ☎ファクス80-1080